

次なる
茨木へ。



≡ 5.26 SUN. 9:30-16:00 ≡

旅に持って行きたい本
旅に出かけたくなる本



ブックリスト

新しい本との出会いがつまっています。
旅に出る時に持って行きたい、思わず旅に出たくなる、
そんな新しいお気に入りの1冊が見つかるかも…。



『本のある空間で世界を広げる図書館さんぽ』

図書館さんぽ研究会／著

自分の街の図書館もいいけど、たまには他の街の図書館に旅のついでに行ってみては？東京中心ではありますが、周辺のよいところをおさんぽ気分でめぐるコースもありますよ。【姫は、いちごを買いに】

『古本屋ツアー・イン・ジャパン』

小山 力也／著

どうかこの本をもって旅をするときは、単独で。でないと、同行者に言われますよ。「古本屋以外に行くところはないの？」と。【N】

『東京マニアック博物館 決定版』

東京国立博物館など名だたる博物館がひしめく東京。そんな中、専門分野に特化した「マニアック」な博物館も沢山あります。特別展も楽しいですが、開館日を確認の上でこういう博物館めぐりも楽しいですよ。【H】

『超訳 ニーチェの言葉』

白取 春彦

ニーチェの著書から現代人に役立つ文章を抜粋し、紹介した本です。さらっと読めて心に響く旅先で読みたい本です。【M】

『おひとりさまの神社めぐり 幸運がやってくる！』

永谷 綾子／著

神社にひとりでお参りすると神さまのパワーをたくさんキャッチできるよう。楽しい神社めぐりをするための参考にし、よりよい自分になるための「神社セラピー」はじめてみませんか。

『旅ガール、地球3周分のときめき』

田島 知華／著

綺麗な写真がいっぱいで見るだけでもワクワクします。カメラを持って出かけたくなりますよ。【ふふふ】



『クアトロ・ラガッツィ 上・下巻』

若桑 みどり／著

戦国末期の日本、ヨーロッパまで到着した四人の少年「天正少年使節」を取り上げた歴史の本。旅先でうっかり下巻を置き忘れてしまい、戻ってきた本なので今も大切にもっています。旅先で読むと、より日本を感じられる。
【チャッピー】

『ひとりっぷ 今日も世界のどこかで』

究極の女子ひとり旅の指南本！AIRやHOTELはもとより、旅バッグの中身や旅のワードローブ、使える旅アプリなども。旅に出たい！と思った時”ひとりっぷ”の背中を押してくれる本です。【ぐるんぱ】

『世界よ踊れ アジア・中東・欧州・南米篇』 『世界よ踊れ 南米・ジパング・北米篇』

ナオト・インティライミ／著

・溢れる情熱と行動力で現地の人の懐に入り込んでいくナオトさん！この人の持つ人間力のものすごいパワーを感じつつ、凡人には到底できそうもない、これこそが”旅！！”なのではないかと、思わせてくれる本です。【ぐるんぱ】
・自分では絶対に出来ない行きあたりばったりの海外旅行。なぜインティライミの曲を聞くと元気になるのかわかる気がします。旅に出かけたくなるだけでなく、ポジティブになれるはずです。【かいちゃん】

『30日間世界一周！ ①～③』

水谷 さるころ／著

旅行ガイドで人気といえばコミックエッセイの旅行本。見てるだけで行った気になれます。そしてすぐ読めます。他の旅行コミックエッセイもぜひ。

『奇界遺産』

佐藤 健寿／編著

かなり重い本です。車で行く時に持っていくのがおすすめです。旅館でまったりしてる時、テレビを流しながらみんなで見ると楽しいです。ひとりたびでも、この本があれば旅気分がかきたてられます。【ひるね】



『50歳からのおしゃれ旅スタイル』

中山 庸子／著

旅の前から後まで、全部たのしめる素敵な旅がしたいなあ。年を重ねて、自分の為に使える時間は増えたけれど、若い時より確実に体力が落ちてきた（笑）50代。無理せず、楽しみを発見できる旅スタイルのヒントいっぱいです。【なんこ】

『死ぬまでに行きたい！世界の絶景 体験編』

詩歩／著

世界の美しい都市や自然が紹介されています。旅の予算やポイントなども載ってるので、すぐに旅へ出ることができます。【いちご】

『世界しあわせ紀行』

エリック・ワイナー／著, 関根 光宏／訳

・紛争地取材につかれたアメリカ人ジャーナリストが世界10か国を回り、もっとも幸せな場所を探す。読むと旅に出たくなる旅行記です。【M】
・人々がいちばん幸せにしている国をさがして、作者はインド・オランダ・ブータン・モルドバ・カタール・イギリス、そしてアメリカへ。時にユーモラスに、時に哲学的に語られる紀行です。【海坊主】

『美しいものを見に行くツアーひとり参加』

益田 ミリ／著

1人も楽しめる！ と、大人女子の方へ…何にも誰にも気兼ねなく…。【KZK】

『一度きりの人生、絶対に行きたい夢の旅50』

A-Works／編

言葉を失うような絶景を見てみたいと思わせてくれる。写真が美しくて写真集として持っていたくなります。【としょかんたろう】



『世界の国境を歩いてみたら…』

「世界の国境を歩いてみたら…」番組取材班／著

テレビ番組の書籍化。日本人になじみの薄い国境周辺の、あんな事こんな事をおもしろく知ることができます。一度は国境を越えてみたいなと思いました。

【としょかんたろう】

日本ではあまり実感としてない国境。世界の国々にはいろんな国境があるのを知ってびっくり。国境で生きるしたたかでたくましい人々の姿に勇気づけられます。【M I I】

『トラベルコンシェルジュが教える次に行くべき旅の作り方』

旅を充実させてくれる、とっておきのヒントが満載。旅の手配のプロのトラベルコンシェルジュのアドバイスで、旅の内容が充実したものになります。【D r. リード】

『ブラタモリ ①～⑱』

いつもの観光とは違った視点で旅を試してみたいくなります。【たえこ】
テレビで人気のある番組が本になりました。

『一度は観たい日本の花風景』

季節ごとに全国の花風景がきれいな写真つきで紹介されています。家族や友人とまたは一人旅で実際に観たくなる風景ばかりです。【シロのしっぽ】

『365日日本一周絶景の旅』

TABIPPO／編

日本全国365か所の知らない場所のような絶景。本をめくっているだけでも旅をしているような気になります。

『トリップアドバイザー行ってよかった外国人に人気の日本の観光スポット』

定番の観光地もあれば「何故ここが?!」と思う所も。あらためて日本を再発見できる一冊。【K】



『365daysまいにち東京』

RETRIP／編

365日、東京を中心とした素敵なスポットを紹介。読んで出かけるもよし、読んで行った気になるもよし。【チャッピー】

『お母さん、旅はじめました』

後藤 由紀子／著

人気雑貨店のオーナーである作者が、子育てを終え、気軽にひょいと旅に出る。イラストも多く、エッセイのように読める本。おっくうがらずにおでかけしたくなるかも？【海坊主】

『花の旅関西』

ウエスト・パブリッシング／著

美しい、キレイな花を見に行き、癒されましょう！【KZK】

『ダーリンは外国人ベルリンにお引越し』

小栗 左多里／著, トニー・ラズロ／著

大好きなシリーズです。今回はベルリンに一家で引っこして、ベルリンの生活を伝えています。旅行では味わえないことがたくさんあって、外国暮らしにあこがれをもたせてもらえます。【KAYO】

『ダーリンの東京散歩』

小栗 左多里／著, トニー・ラズロ／著

東京の色々な場所のうんちくを知る事ができます。外国人の御主人の目線でのコメントも楽しいですし、マンガがほとんどなのですぐに読めるところもGOOD！【のりりん】

『深夜特急』『旅する力 深夜特急ノート』

沢木 耕太郎／著

全6巻の小説です。旅先の風景が目の前にあるかように引き込まれていきます。そしてあてもなく放浪したくなります。【T. K】



『日本酒のおいしい店 関西版』

京阪神エルマガジン社／編

おいしいお酒を出してくれるお店から、日本酒の作り方、楽しみ方まで書いてある本。旅先の宿でながめて、飲めない人も飲んだ気になれるかもしれません。【W】

『ちずたび京都を走る自転車BOOK ロングライド版』

環境市民京都自転車BOOK制作プロジェクトチーム／編

自転車でしか出会えない景色を紹介しています。季節の良い一日、体全体で風を感じてみませんか？ 少し疲れたらゆったり温泉につかったりスイーツでも舌つづみ。社寺めぐりで先人に思いを馳せてみたり…。

【まゆびー】

『駅からはじまるハイキングブック 関西発日帰り』

おすすめ25コースを紹介しています（茨木コースも載っています）。毎日忙しく通っている道でも、目線を変えて町をゆっくり歩いてみると…。ちっちゃなちっちゃな『旅』ですが、素敵で大きな発見があるかも！？

【まゆびー】

『見とこ、行とこ、トコトコ四国』

もぐら／著

地元の人が案内する四国。香川県民によるとうどん屋さんは「行列ができてないお店はもうダメ！」だとか、ふつうのガイドブックとはちょっと違います。

『秘密の沖縄スポットガイド』

北島 清隆／写真

ガイドブックというより、写真集のような本です。沖縄本島だけではなく、離島の写真もたくさん。キレイな海だけではない沖縄の魅力を発見できるかも…。



『そして、ぼくは旅に出た。』

大竹 英洋／著

アメリカって広いんだな。未知の世界が広がっているんだな。自然の雄大さ、奥深さを知った一冊です。【アン】

『表参道のセレブ犬とカバーニャ要塞の野良犬』

若林 正恭／著

キューバ旅行を通して、著者の素直な心や人生観等が書かれています。とても読みやすく、おもしろいので一気に読めます。

『東西／南北考 いくつもの日本へ』

赤坂 憲雄／著

東北学という新しいジャンルを切り拓いた作者による、日本文化論。「日本」という文化の重層性を様々な視点から論じている興味深い本。【S】

『ハーメルンの笛吹き男 伝説とその世界』

阿部 謹也／著

「ハーメルンの笛吹き男」の伝説はどこから生まれたのか？ 中世のヨーロッパ社会の差別観から、その謎を解き明かす驚きの論考。【S】

『英国一家、日本をおかわり』

マイケル・ブース／著, 寺西 のぶ子／訳

料理ジャーナリストである英国人筆者が、家族と一緒に日本全国で食事をし、食文化と共に紹介するシリーズ第3弾目の本。1作目はNHKでもアニメ化されました。この本は東日本大震災後、来日したルポです。食べ慣れたものがどう書かれているかも興味深いですが、旅行先で出会う「いつもとちがう食文化」の出会いの感動が伝わる本です。【H】



『誰も知らない世界のことわざ』

エラ・フランシス・サンダース／著, 前田 まゆみ／訳

みなさんは、ことわざをいくつ知っていますか？日本だけでなく、世界中に色々なことわざがあります。みんな、むかしから受けつがれてきた大切なことばで、色々なことを教えてくれ、気づかせてくれます。それぞれの国独特の文化も分かっておもしろいですよ！！【大人だって児童書を読んでみませんか？】

『ウユニ塩湖世界一の「奇跡」と呼ばれた絶景』

TABIPPO／編

世界一の絶景「ウユニ塩湖」。選りすぐりの絶景写真集。旅心を誘われる本です。【しばわんこ】

『美しい鳥ヘンテコな鳥』

川上 和人／著

「世界にはこんな美しい鳥がいるんだあ…！」と見惚れてしまったり、たまに出てくるヘンテコな鳥に笑ったり。鳥好きじゃなくても鳥好きになる一冊です。【ブックチャン】

『世界の城～Castles』

世界中の美しく荘厳なお城や宮殿の風景や内部の写真集です。約15cm×15cmのサイズで、旅のお供にちょうど良い大きさもおすすめのポイントです。【ブックチャン】

『復元CG日本の城』

実際にその場へ出かけてみたくなります。【たえこ】

『おしろツアーズ』

東海テレビ放送／著

お城に興味がある人も、ない人も、思わず行きたくなっちゃう楽しい本です。【K】



『図説戦う日本の城最新講座』

西股 総生／著

日本100名城めぐりや歴史大河ドラマなどで日本のお城の魅力が広く伝わっていますね。城めぐり超初心者にも、楽しく、写真やイラストもあるのでわかりやすいです。【なんこ】

『京都のおいしいパン屋さん』

これを持って京都に行きたい！！行き慣れた場所でも、1本筋を入ると新しいパン屋さんに合えました！！

『お菓子の包み紙』

甲斐 みのり／著

普段、何気なく手にしているお菓子の包み紙が集まれば、その芸術性に改めて気付きます。いつも目にしているもの、懐かしいもの、斬新なものなど。パラパラめくって楽しんでください。【ブックチャン】

『旅するパティシエの世界のおやつ』

鈴木 文／著

きれいな景色やすてきな建築物を見に行く旅もいいですが、おいしい郷土菓子を求めての旅に行きたくなる本です。

『北欧でみつけた手づくりの暮らし』

セキ ユリヲ／著

手芸の本ですが、スウェーデンの手工芸の学校に留学した著者の日記なので、スウェーデンの日々を楽しむ姿を発想し、旅に出かけたくなる、ほのぼのとした一冊です。女性向きです。【TOM】

『諸国空想料理店』

高山 なおみ／著

濃い～海外旅行というか。



『世界の美しい公園』

パイインターナショナル／編著

カラー写真で公園や庭園が紹介されています。本を見るだけでも美しい世界にふれられます。国営ひたち海浜公園（茨城県）の青い花の広がる風景は、見に行きたくなりました。【いちご】

『犬がうまれる』

雲がうまれる／著

やさしい柴犬のイラストと、シンプルな言葉に心が和みます。犬を飼ったことがある人もない人も笑顔になる本です。散歩中のワンちゃんに会いに出かけたくなります。【紫】

『世界を旅するネコ クロネコノロの飛行機便、37カ国へ』

平松 謙三／写真

黒猫のノロがご主人と一緒に世界各地へ旅する本で、様々な国の美しい景色にノロが入り込んでいる写真がとても魅力的です。【図書館太助】

『岩合光昭の世界ネコ歩き』

岩合 光昭／著

かわいいネコに癒されます。【ふふふ】

『ちやっかり温泉』

久住 昌之／著, 和泉 晴紀／画

人が皆忙しくしている時にちやっかり温泉、グルメを楽しむのをテーマに連作したエッセイ集で、温泉を気楽にもっとたのしみたくなる一冊です。（近場の温泉）【TOM】

『全国現役観光列車図鑑』

レイルマンフォトオフィス／著

目的地までの早さではなく、乗る事自体が楽しみであり旅行になる列車がたくさんとりあげられています。【K】



『世界の機内食』

世界各国の航空会社が提供する機内食メニューをカラー写真で紹介。眺めるだけで、旅行気分が味わえ、エアライン選びの参考にもなります。

【Dr. リード】

『これから』

「太陽の塔」の製作者、岡本太郎の“書”はまるで絵のようで、一文字一文字から強いエネルギーを感じます。一文字一文字ゆっくり見つめてください。【ブックチャン】

『ローカル線で温泉ひとりたび』『愛しのローカルごはん旅』

たかぎ なおこ／著

たかぎさんのやわらかいタッチの絵と、何を食べてもおもしろいような笑顔にいやされます。ひとりたびだからこその自由さ、ゆったり感がいっぱいであらゆるひとりに出れそうな気がしてくる一冊です。【ひるね】

おもしろいようなご当地グルメがたくさん出てきます。思わず食べに出かけたくなります。【ミゾレネコ】

おもしろいようなごはんがいっぱい。食べに出かけたくなります。【T】

『東海道新幹線の車窓は、こんなに面白い！』

栗原 景／著

何度か利用していた東海道新幹線。その車窓から見える富士山が特に有名ですが、沿線には様々な工場・遺跡・お城・看板があり、東京と新大阪の旅がさらに面白いものになること間違いなしです。【姫は、いちごを買いに】

『CREWでございます！ スチュワーデスお仕事日記』

御前 モカ／著

キャビンアテンダントの仕事の裏話が描かれている漫画本です。笑える話の中に、安全の話も書かれていてためになります。安全で快適な空の旅は、たくさんのCREW（飛行機の乗員）のたゆまぬ努力で成り立っていることがわかります。読んでから飛行機に乗るといつもとは違った気分で飛行機の旅が楽しめそうです！【なのはな】



『はじめてのデジタル一眼撮り方超入門』

川野 恭子／著

旅に出て、こんなステキな写真を撮ってみたいなあ〜と思います。
【パステル】

『21世紀に残そうにっぽん原風景』

産経新聞大阪本社写真報道局／編, 阪本 紀生／著, 薩摩 嘉克

茅葺き屋根や蓮花畑、水車小屋や輝く棚田などの写真が載っています。都会のビル群から離れて山里で深呼吸してみませんか。【M】

『現代語古事記』

竹田 恒泰／著

古の神々の物語が、とてもわかりやすい文章で書かれています。各地の神様を、この文庫を片手にたずねて回ってみたいと思います。【KAYO】

『マチネの終わりに』

平野 啓一郎／著

息の長い人気の大人の恋愛小説。小説のモデルと言われる大阪出身のクラシックギタリスト、福田進一のCDもあわせて聴いてほしい。CD同タイトル図書館に所蔵あります。【S】

『旅屋おかえり』

原田 マハ／著

売れないアラサータレントが他人の代わりに旅に出て、周りを笑顔にしていくお話です。【ふふふ】

『たゆたえども沈まず』『暗幕のゲルニカ』『ジヴェルニーの食卓』

原田 マハ／著

ヨーロッパ旅行に行くときにはぜひ！美術館めぐりの際に上記三冊を読んでおくことより楽しめると思います。【hana】



『おいしいベランダ。』

竹岡 葉月／著

大学進学を機に、一人ぐらしを始めた主人公が、おとなりに住んでいるイケメンデザイナーの影響でベランダガーデニングを始める。短編で読みやすく、移動時間も苦になりません。

『アンマーとぼくら』

有川 浩／著

沖縄に行きたくなる本！！沖縄を懐かしく思える本！！名所がたくさん出てきて旅を感じられる本。登場人物がいい人たちばかり、家族の大切さを教えてくれる、あたたかな気持ちになれる本です。【しばわんこ】

沖縄の観光名所がたくさん出てきます。知っている場所も知らない場所も、今すぐ行きたくなります。表紙の「エメラルドグリーンとコバルトブルーの海」に引き込まれます。

『旅猫レポート』

有川 浩／著

映画にもなった作品です。ある事情で飼えなくなった飼い主が、自分の愛猫と一緒に次の飼い主を探す旅に出る話。絵本も両方読みましたが、ファンタジーではありますがとてもほっこりする気持ちになりました。【みゆき】

『玄関の覗き穴から差しってくる光のように生まれたはずだ』

木下 龍也／著, 岡野 大嗣／著

短歌は一首一首が一つの作品として楽しめるので、旅先でふとした時に好きなページを読む読み方もできます、現代短歌の若手の二人が詠む短歌は旅先の景色を深く見せてくれます。【ちー】

『岩合さんの好きなネコ』

岩合 光昭／著

チョ～ネコ好きな私いつも岩合さんのネコの写真には魅せられています。だってどのネコもチャーミング。表情にもほっこりさせられます。全国津々浦々の愛らしいネコがいっぱい写っているこの写真集。実物のネコちゃんに会いにいつてみようかにゃ～🐾【おとすけ】



『スメル男』

原田 宗典／著

ある日、自分の体からかいだこともないような異臭が漂い始めたらどうしますか？しかも目の前で鼻をつままれても、自分は鼻が利かず、確かめようがなかったら…そんな主人公がにおいの原因をさがす、冒険の旅に出ます—長編ですが一気に読めます。作者の発想力には驚きますが、その愛すべき人柄も文体ににじみでていて、ページをめくる手が止められません。

『ぼぎわんが、来る』

澤村 伊智／著

怖い。一体、どうなるのか?! 章によって、視点が変わる。怖すぎるので、旅先で、ゆったりと、読んでいただきたい。【本の虫】

『悪いものが、来ませんように』

芦沢 央／著

いったい、誰が悪いのか? 読んでいくうちに混乱してくる。あなたは、いったい、誰? 「なっちゃん」とは? 【本の虫】

『潮騒のアニメ』

川瀬 七緒／著

昆虫にやたらくわしく、タフで空気を読まない小学生女子のような昆虫学者と、無口な刑事がタグをくんで推理をくりひろげる物語。シリーズになっていますが、私はこの話が一番好きで、それ以前の作品も読み返してしまいました。【ひるね】

『スティル・ライフ』

池澤 夏樹／著

地上にいる自分の目の高さという視点に加えて、空から世界を鳥瞰する視点を体験させてくれるような一冊です。30年以上前の芥川賞受賞作ですが、今でも唯一無二の作品・作家だと感じます。【佳】



『プラハの春 上・下巻』

春江 一也／著

東欧に行く方に、飛行機の中などでじっくり読むのにオススメな本です。フィクション？ 実話？ どちらかなと思わせる、胸に迫って来る歴史小説です。【プーさん】

『狼と香辛料 ①～②』

支倉 凍砂／著

ライトノベルですが、ファンタジー作品で主人公は長い旅をし、全21巻に及びます。彼らの旅は、どこへ行きつくのか。中世ヨーロッパに旅してみたくくなりますよ。【TOM】

『沈黙』

遠藤 周作／著

もう何回読んだことでしょうか。自分の生きる道に迷ったとき、悲しいとき、孤独を感じる時。生きることは決して楽なことではありません。先人たちの苦悩、悲しみの末の今であることを感じさせてくれる一冊。【ぴんから兄弟】

『小僧の神様, 城の崎にて』

志賀 直哉／著

城崎温泉を訪れる前に読むと、温泉地の湯けむりや小川に架かる橋、はては入浴後にいただくプリンにまで、名文の旅情がしっとりと感じられるようになります（効果には個人差があります。）。【SU】

『嘘を愛する女』

岡部 えつ／著

映画の小説版。同棲していた恋人の素性が全て偽りでした。彼の正体を知るため、各地を訪れていくうちに過去が見えてきます。読みやすい文章で冒頭からひきこまれるストーリー展開で一気に読めました。映画もみてみたいと思いました。【ハンドクリーム】



『奔馬』

三島 由紀夫／著

日本初のノーベル文学賞受賞者・川端康成に推薦状を書いた三島由紀夫の著作権が、2020年で切れる予定です。T P Pで著作権の期間が延長されたのが焦眉の急です。【N】

『クラウド・コレクター』

クラフト・エヴィング商會

小さな雲を、小さなガラス瓶につめるコレクターなど、たくさんの不思議なお話がこの本には書かれています。挿絵も表紙もすごくこだわって作られていて、美術書のような雰囲気もあります。一度手にとって見てほしい本です。【F】

『海辺のカフカ 上・下巻』

村上 春樹／著

この本を読むと舞台となった四国の高松をめざして旅をしたくなります。家出した主人公のカフカ少年は放浪の末に高松の図書館にたどりつき、様々な人々に出会い成長していきます。また、もう一人の主演ナカタさんもバス、トラックを乗り継いで高松へ波乱万丈な旅をします。そして、見ず知らずの二人のエピソードが重なり合う予想外の展開に思わず引き込まれる作品です。【アマデウス2世】

『エヴェレスト 神々の山嶺』

夢枕 獏／著

映画「エヴェレスト」の原作。分厚い本ですが、一気に読めます。山々の魅力やすさまじさを体感できる読み応えのある一冊です。【しばわんこ】

『子どもが体験すべき50の危険なこと』

Gever Tulley／著, Julie Spiegler／著, 金井 哲夫／訳

旅先でしかできない冒険に挑戦してみる本です。ただ、やる時は、自己責任で。【W】



『わしらは怪しい探険隊』

椎名 誠／著

椎名隊長率いる東ケト会の島でのキャンプを椎名節満載で書かれた1冊です。オシャレ感ゼロのキャンプなのに、なぜかメチャクチャうらやましい。しかも笑えます。【旅は道連れ】

『旅行者の朝食』

米原 万里／著

米原万里が出会った食べものを、その国の文化にも触れながら書かれています。彼女のリサーチ力と洞察力には驚くばかりです。冷凍白身魚のかんな屑が食べてみたくなります。【旅は道連れ】

『山田全自動でござる』

山田全自動／著

浮世絵風のイラストと絶妙なコメントでいろんなあるあるを表現。思わず“クスッ”と笑ってしまうこと間違いなし！【ブックチャン】

『漢字セラピー 五つ星のしあわせ』

ひすい ことろう／著, はるねむ／著

「日本語を世界一、幸せになる言語にしたい」という発想で編まれた本です。パラリとめくったページに、今幸せに感じられるヒントのワードが出てきます。旅の、待ち時間や移動のひとつときに、負担のないボリュームの一冊です。

『生きるヒント』

五木 寛之／著

旅の目的地に着く間に読んでほしい。日常から解放された中、気持ちもリラックスしていることでしょう。そんな中、今までの人生をふりかえりつつ、将来のこと、自分、家族に、どのようなことが待ち受けていても「信じる心」さえあれば生きていけることを感じられる一冊。【ぴんから兄弟】



『世界の果てでも漫画描き ①～③』

ヤマザキ マリ／著

スナフキンにあこがれ、兼高かおるに憧れた作者。これまで旅した国の数は30数カ国というヤマザキマリの世界放浪記です。フタの閉まらないぼろぼろのスーツケースに荷物をいっぱい詰めこんで、今すぐチベットに行きたいくなります。【スケ】

『^{ひな}鄙への想い』

田中 優子／著, 石山 貴美子／写真

法政大学初の女性総長を務める作者が、江戸学の視点から鄙＝地方を見つめたエッセイ。日本の原風景を現代の中にさぐりながら、これからの日本を考えた本。【S】

『遊覧日記』

武田 百合子／著

浅草花屋敷など、旅行者のあまり行かないところが、どれほどけったいで楽しいか。娘さんの花さんの写真もいいよね。【N】

『いつも旅のなか』

角田 光代／著

角田光代さんの紀行文です。旅先での豊富な体験談を、表現豊かな情景描写で書かれていて、とても興味深く、読み応えのある本です。

『やっぱり食べに行こう。』

原田 マハ／著

著者が美術館の学芸員時代に通ったニューヨークのランチ風景や、小説を書くための取材で訪れたパリでのおいしいバゲットなど、グルメと旅行、またアートも楽しめる本です。【図書館太助】



『どくとるマンボウ航海記 改版』

北 杜夫／著

漁業調査船航海中に立ち寄った、アジアやヨーロッパ、アフリカの風景を自由に描いた航海記。子どもも大人もたのしめる一冊です（昔読んだ方も、今一度読んでね。）。【プーさん】

『何でも見てやろう』

小田 実／著

留学生時代の著者が、笑顔とバイタリティで22か国を貧乏旅行し、見たまま感じたままに書いていて、なんとかなるだろう精神の怖さ、行動力、好奇心に心打たれます。海？ 山？ 世界一周？ 小旅行どこにでも動き出す勇気がもらえますよ！【プーさん】

『運命』

蒲島 郁夫／著

熊本地震で未だ復興に尽力する蒲島郁夫熊本県知事。農協職員からハーバード大学留学を経て、東京大学での政治学の教授までの軌跡。くまモンの上司です。【N】

『海を照らす光』

M. L. ステッドマン／著, 古屋 美登里／訳

灯台守の話。はじめは、静かだが、荒れる海のように物語が進んでいく。ぜひ、ラスト（ぶ厚い本ですが）の心地良さを味わって欲しい。【本の虫】

『日本の名景－古道』

森田 敏隆／著

1996年に文化庁が選定した「歴史の道百選」第1次選定の78か所に9か所の古道を加えた87か所を写真と解説で紹介。かつてその道を通った人に思いをよせながら、歩いてみてはいかがでしょう。【中年H】



『彼のオートバイ、彼女の島』

片岡 義男／著

オートバイ、島、人の出会い・・・旅の要素がつまっています。バイクが好きな方にもおすすめです。映画化もされているので、ぜひそちらもご覧ください。【T. K】

『サーフトリップジャーナル』

3か月に一度くらい発行される雑誌です。「日本一周波乗り旅」や「メロでスローな旅先案内」など、サーフボードを片手に旅に出たくなる冊子です。一生忘れられない、素敵なサーフトリップに出会ってくださいね。【まーし】

『京阪神発半日旅』

吉田 友和／著

「旅に出たいけど余裕がない・・・」そんなあなたには”半日旅”がおすすめ！この本には、「福知山線廃線敷」「海洋堂フィギュアミュージアム」など、京阪神から日帰りで行ける面白い場所がたくさん！ガイドブックとしても読み物としても楽しめる一冊です。【ヒデ】

『作家の旅』

コロナ・ブックス編集部／編

作家さんは、感性で仕事をされてる方々なので、作家さんの紀行文は、ご本人の感性をのぞき見ることができます。「コロナ」の「作家の〇〇」シリーズは、作家の小文、その作家に縁ある人の解説、カラー写真のバランスがよく、パラパラ読み飛ばすもよし、じっくり読み込むもよし。【S】

『河童が覗いたヨーロッパ』

妹尾 河童／著

この本の最大の魅力は手書きの文章とスケッチです。作者が訪れた街や泊まったホテルの様子が詳しく描かれていて、実際に旅をしている気分になることができる本です。【にっしー】



『藤村詩集』

島崎 藤村 / 著

青春の思い出がうかびます。【アサボーイ】

『Lonely Planet』

世界の全域をカバーしているおなじみ Lonely Planet。情報量が圧倒的に多く旅先でも困らない。英文表記で一見とつきにくいですが、平易な英文で、丁寧に読んでいけば大丈夫。【みけねこ】

『美しい椅子 ② ⑤』

島崎 信 / 著, 東京・生活デザインミュージアム / 著

椅子が好きになると、ホテル泊まりが楽しくなります。でも、ウンチクのかたむけすぎには要注意！【N】

『旅の途中で』

高倉 健 / 著

旅先で、ロケで、健さんが出会うパリのお茶やさん、石垣島の運動会、そして遊郭まで！かざらない文章で、見知らぬ土地での出会いを綴った名エッセイ。【海坊主】

『世界一周ハネムーンBOOK』

新婚旅行で世界一周した10組のご夫婦の体験談やアドバイスがぎっしりつまっています。新婚旅行でなくても、世界一周してみたい方も参考になりますよ！【ブックチャン】

『京都ほんやら洞の猫』

甲斐 扶佐義 / 著

京都の街に住むかわいい猫が人々と暮らしている風景がすてきですよ。【じゅうさんばん】



『百寺巡礼』

五木 寛之／著

全10巻で全国100のお寺を巡る、ある意味ガイドブック。歴史や仏教の知識がなくても小難しくなく、一緒に旅をしている気分になれるので、次は本当に訪ねてみたい、また改めて再度訪ねてみたいなと思える本です。
【ごまプリンナ】

『犬と、走る』

本多 有香／著

単身カナダへ飛んでから、日本人女性としては初めて犬ぞりレース「ユークンクエスト」1,600キロを完走するまでの15年間のストーリー。雄大なカナダやアラスカを舞台とする犬ぞりの「旅」と著者の破天荒な人生の「旅」が、読む人の背中を押してくれます。【桑田町のねこ】

『ブラック・ジャック』

手塚 治虫／著

ピノコがやきもちをやいているところがかわいいです。【くもみんこ】